

各 位

会 社 名 STEILAR C.K.M 株式会社

代 表 者 名 代表取締役 橋本 勝司
(コード番号 2673)

問 合 せ 先 取締役(総務担当)野口 正己
電 話 03-5326-8880

特別損失及び平成 19 年 3 月期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 5 月 25 日付の当社「平成 18 年 3 月期 決算短信（連結）」及び「平成 18 年 3 月期 個別財務諸表の概要」において発表いたしました、平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日）の連結業績予想と個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生及びその内容

個別

(1) 減損損失及びたな卸資産評価損

オリジナルブランド事業における青山店舗は継続して営業損失が発生し、回復の見込みがないため平成 19 年 3 月末日をめどに閉鎖することとしました。これにより、青山店舗の建物（26 百万円）、器具備品（6 百万円）の帳簿価格全額を減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。さらに、同店舗で販売する商品につきまして、たな卸資産評価損 21 百万円を特別損失に計上しております。

(2) 関係会社株式評価損

当社子会社である株式会社 S・R プロモーションは設立後 3 年を経過し、業績は回復基調にあるものの、当中間期末時点ではなお債務超過にあるため 9 百万円の関係会社株式評価損を計上しました。

(3) 貸倒引当金繰入

当社子会社である株式会社 S・R プロモーションへの貸付金 91 百万円のうち、来期における回収可能見込額 46 百万円を除く 44 百万円を貸倒引当金に繰り入れました。また、株式会社フジキ通信販売研究所に対する貸付金 19 百万円について同社の返済計画の見通しが不確かなため、貸付金全額に対して貸倒引当金を設定しました。

2. 平成 19 年 3 月期 連結・個別業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

連結業績予想

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前回予想 (A)	3, 7 1 7	4 4	1 9
今回修正 (B)	3, 3 0 2	△ 1 3 5	△ 1 9 2
増減額 (B-A)	△ 4 1 5	△ 1 7 9	△ 2 1 1
増 減 率	△ 1 1. 2 %	—	—

(注) 連結対象会社は、株式会社ホット・コミュニケーション (62.5%子会社)、株式会社クリスタルアース (100%子会社)、株式会社アंकプロモーション (100%子会社)、株式会社 S・R プロモーション

ション（100%子会社）、株式会社夢隊ファクトリー（100%子会社）、ライフステージ株式会社（100%子会社）、株式会社ソシオ（100%子会社）、及び匿名組合1組合であります。

個別業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	3,465	58	32
今回修正（B）	3,144	△62	△163
増減額（B-A）	△321	△120	△195
増減率	△9.3%	-	-

（2）通期（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

連結業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	8,136	281	157
今回修正（B）	7,908	76	△51
増減額（B-A）	△228	△205	△208
増減率	△2.8%	△73.0%	-

（注）連結対象会社は、株式会社ホット・コミュニケーション（62.5%子会社）、株式会社クリスタルアース（100%子会社）、株式会社アंकプロモーション（100%子会社）、株式会社S・Rプロモーション（100%子会社）、株式会社夢隊ファクトリー（100%子会社）、ライフステージ株式会社（100%子会社）、株式会社ソシオ（100%子会社）、及び匿名組合1組合であります。

個別業績予想

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	7,290	182	102
今回修正（B）	6,774	△32	△132
増減額（B-A）	△516	△214	△234
増減率	△7.1%	-	-

修正理由

個別中間期の業績予想につきましては、個性ある新商品や当社オリジナル商品の開発が予定通り進まなかったためカタログの発行部数を減少させたことや外部展開を控えたこと及び通信メディア部門におけるホームページのリニューアル作業の遅れにより予定通りの広告出稿ができなかったことを主因として売上高の減少を生じております。また経常利益につきましては、売上未達による利益の減少とともに、将来の人材確保のために給与制度を見直したことも要因となっております。

連結中間期につきましては、前述のとおり個別における業績予想未達と株式会社クリスタルアースにおいて売却を予定していた不動産物件の契約が下期に繰り越されたことが要因で売上高及び経常利益の減少を生じております。

個別通期の売上高及び経常利益につきましては、上述の中間業績修正理由に記載した問題点の改善が第4四半期に繰り越されること、連結通期の売上高及び経常利益につきましては、個別での業績未達を主因としております。なお、個別での経費負担が大きい青山のオリジナルブランドショップにつきましては、今期末の閉鎖を予定しております。

以上